

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

令和元年10月29日（火）

### 2 確認箇所

5／6号機サービス建屋ホットラボ

### 3 確認項目

アルファ核種含有試料分析箇所の放射線防護対策

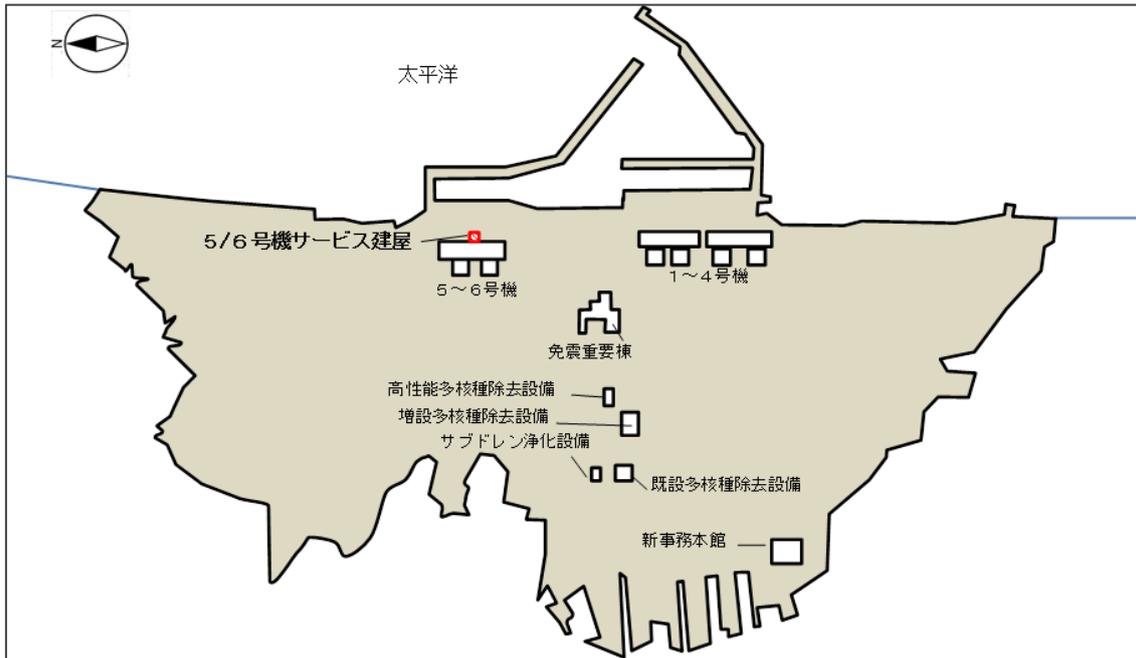
### 4 確認結果の概要

3号機原子炉建屋滞留水等で高濃度のアルファ核種（ $\sim 10^5$ Bq/L）が検出され、定例的に高濃度のアルファ核種含有試料の分析が必要になったことから、東京電力は福島第一原子力発電所で取り扱う分析試料の放射能レベルを踏まえた放射線防護対策を検討・策定した。本年9月24日から策定した放射線防護対策に基づき分析を開始したことから、アルファ核種含有試料を分析している5／6号機サービス建屋ホットラボを確認した。（図1）

- ・設備面の対策としてアルファ核種含有試料を取り扱うドラフトチャンバ<sup>※1</sup>周辺をR（レッド）ゾーン<sup>※2</sup>に区画するとともに、ビニールで覆われたハウスが設置され、外部に放射性物質が漏れ出さないようにハウス内部が負圧に管理されていた。（写真1）
- ・作業員の防護装備は全面マスク、防護服、ゴム手袋2重、腕カバーであった。（写真2）
- ・汚染拡大防止対策として、ハウス出入口では靴交換をするとともに、ハウス内から退出する場合は汚染検出器で全身及び持ち出し物品の汚染検査をする手順になっていた。（写真3）
- ・ハウス内には空気中の放射性物質濃度を連続監視する連続ダストモニタが設置されていた。（写真4）

※1 ドラフトチャンバ：揮発性の有害物質や飛散の恐れがある放射性物質等を扱う時に用いる局所排気装置の一種であり、前面が上下にスライドする窓となっており、下から手を入れて作業を行う。

※2 R（レッド）ゾーン：福島第一原子力発電所では汚染のレベルによって区分されており、汚染のレベルが高い順にR（レッド）、Y（イエロー）、G（グリーン）ゾーンに分けられている。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)  
ホットラボ内の状況



(写真2)



(写真3-1)  
ハウス出入口の状況



(写真3-2)  
ハウス出入口に設置されていた汚染検出器



(写真4)

- 5 プラント関連パラメータ確認  
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。